

高齢者の意見調査を

命を守る取り組みを



議員 森 治史

問 町道坂の下西間線と海岸を通る田野浦（旧県道）から上に登る道については。

答 松本 情報防災課長
 昨年の段階で測量、設計を行っており、今年度は地権者及び関係者と協議が整い次第、工事を着工。

問 南部農協東側の高台にある墓所へ通じる道への手摺りの設置については。

答 松本 情報防災課長
 今年度以降に測量、設計を行い、地権者の協力を得て整備工事の予定。

答 松本 情報防災課長
 今年5月に保護者からの要望もあり、今年度中に測量、設計を行い、次年度以降に整備工事の予定。

問 町道坂の下西間線の西の谷合に4軒、9名の方が生活をされている。災害時にはこの道での避難しかないのだが、この整備については。

答 佐賀町分に避難道が完成しているが、地区の高齢者が話されるには災害時には階段の段差が20cmあるのと、あの勾配ではきつ過ぎることと少し遠いので利用が辛いとのことから、地区内有志4名で佐賀駅前の旧国道の山肌にあつた約1m幅の上に登れる道を、自分たち高齢者が利用しやすいように約60cmを段差10cmの階段にし、約40cmは既存のスロープのままで大敷の古い物を頂いたりして登り用のロープをつけるなど自分達

答 森田 まちづくり課長
 現在町道の整備については日常生活の利便性の向上や、南海地震に備え国土交通省の社会資本整備総合交付金事業の認可を頂いた整備計画に基づき実施しており、平成30年度までの事業個所は計画済。

津波避難道として利用されると思われるが、今後も事業に沿った道路整備や町の財政状況を踏まえると整備は困難な状況である。

で整備に努力されている。町長は公約の中で「高齢者を大事にする」と話されている。これからの避難道計画では高齢者の話を十分に聞かれて行動能力等を調査した上で利用しやすい避難道にすべきではないか。

答 浜田 海洋森林課長
 町分避難広場、避難道工事は最終工事費2120万円です。本年3月27日完成した。指摘

の段差については建築基準法に基づき、10cm、15cm、20cmの3案があり、踏み幅30cm、段差20cmで施行しており、設置基準に基づいて階段部の直高が4mを超える個所には踊り場を併設しており、設計段階においても災害弱者の立場に立った施工を基本にしている。したが、今後は一層避難される方の意見を取り入れて命を守る取り組みを進めていきたい。



完成した町分避難道